

北八ヶ岳 蓼科山(2530m)～北横岳(2480m) 縦走

2018年1月2日(火)～3日(水)

メンバー：磯部S

【1 / 2 (火) 曇り一時晴れ】

北八つとは言え、マイナーで人が入らないこのコースを単独で行く場合、トレースがなかったら（そうあってほしいが）一泊でもかなり厳しいと思う。

蓼科山までは安定した登山道なので、距離稼ぎのためにヘッドランプで早朝出発した。

冬泊まり装備を1人で持ち上げるのは、けっこう厳しい。

たまたま単独でトライすることになったが、何年か前の同時期に、天狗岳から編笠山まで1人で縦走している。

（この時も蓼科山から入ったが、大雪で天狗岳までをカットした。）

今回この山行をこなすことができれば、「冬季単独八ヶ岳全山縦走」に、近いモノ（食料三泊分背負ってないし、北横～天狗はカットしているが・・・）となるのでちょっとやりがいがある（言葉に酔いしれている・・・）。

蓼科山頂に着いたとき、視界はなかったが、双子山に続くトレースはあった。

いきなり急下降となるためスノーシューではなく、アイゼンをはいた。

トレースを外さなければさほど潜ることはなく、大河原峠までさくさく樹氷に囲まれた雪景色を堪能しながら進む。想像していた世界を独り占めた。



● 大河原峠への縦走路。残念ながらトレース有り。



●もみの木だろうか、雪化粧がやわらかい……。

大河原峠から双子山までは、視界も開け吹きさらし。スノーシューにはきかえその安定した足取りで、快適に歩を進める。

アイゼンで頑張れないことはないが、足がぐらつく、時折もぐる、そのたびに体制を整えるため筋肉を使用していくのだが、そのボディーブローによる疲労は一泊以上の山行にはマイナスだ。

そこを解消できるスノーシューはすばらしい。ただ、頼りすぎると雪上歩行技術は身につかないため、使い分けが重要だ。

今回のちょっとしたポイントは、ここからしばらく稜線上を行くが、途中双子池ヒュッテに向かって稜線を離れ下降していくルートファインディングだ。

樹林帯の平坦な尾根は視界に頼れないため、地形図と高度確認による現在地点を把握しながら下っていくことになる。

じきにピンポイントで双子池ヒュッテのある谷に降りた。



●平坦な双子山山頂。風強く雪が飛ばされている。



● 双子池ヒュッテ。誰にも会わない。



- 双子池。張り詰めた冷たい空気しか感じるできない。

当初は双子池で泊まる予定だったが、時間も早く（誰もいないし・・・）また明日の行動のために安心できる地点まで進めたいと思い、亀甲池まで行くことにした。



● 亀甲池。まだ2時過ぎだというのに、冷たい陰に覆われていく寒々とした景色。!

残念ながら、ここにも人の気配はなかった。結局、蓼科山を下降した直後に2人組とすれ違った後、やはり誰にも会わなかった。

夏なら「この山々はオレだけのモノだ!」と笑いが止まらないのだが、2000Mを越え、夜は-20度近い世界で1人は、ただただ辛さだけである。

しかし、誰にも頼れない大自然の中で（おーげさな文章表現に陥る単独行の特殊性）、厳しさ、達成感、そのごちゃごちゃに入り交じった感動に、ふふふと笑えてしまうところは、これはもはや変態的山屋にしか理解できない行為というものであろう。

<タイム> 女神茶屋前駐車場（5:50）－蓼科山（8:50）－双子山（12:10）－双子池ヒュッテ（12:50）－亀甲池ビバークポイント（13:55）

【1 / 3（水） 曇り】

この夜は、冬型が強まり強風が続くだろうな～と予測していたのだが、案の定辛く長い夜となった。雪こそたいしたことないのだが、風よけとの間の吹きだまりにどんどん雪が積もっていく。

1人だと、起きなかつたら雪に埋もれてしまう? 窒息してしまう?（スノーフライではない）、と過度に心配して眠れない。

目を開けるたびにテント壁面の暗い影が、下から徐々に高さを増していく（ように思えてしまう）。雪かきは一回だけしたのだが、「誰がやるんだ? ちくしょうオレだよな。。」とあたりまえの独り言。

窒息しないように勢いよく通風口を開放しておくから、朝になったらシュラフの上に積雪していた・・・。

4:30起床。「お椀で食べるカップヌードル」二つをお湯に入れ、コンロにかけると、2分でふにゃふにゃになった。

美味しいし効率的である。ただし大人数で行くと、棒ラーメンに比べ体積で負ける。朝ご飯の良い選択肢ができたと思う。

本日は北横岳への急登をこなせば、暖かい世界が待っている。気合いが入る。所々かなりの強風でトレースはかき消されたが、空いた樹間、赤テープ（なぜかこの区間は多かった）などで迷うことはない。

M S Rスノーシューの醍醐味を發揮、ヒールを上げるバーを使い急傾斜をモノともせず、がしがし高度を稼いだ。

が、単独行の注意点、ペースアップしすぎで途中でバテぎみとなり、最後は深い雪の中、あえぐようにラッセルしやっと主稜線に乗った。



●北横岳への急登。いっしょうけんめいは楽しい。



●凍てつく北横岳山頂。人も見えず、何も見えず。



● 白い樹林の中にたたずむ、愛らしい人の居場所。ほっとする・・・。



- 坪庭までの踏まれた縦走路は、メルヘン雪世界にワープします。



- たくさんの方が登ってきた。写真撮ってくれた。（おじんになったな～。）



●北八ヶ岳ロープウェイの終点、スキーヤーの出発点で人混みがうれしい。

ここから別世界。良く踏まれた登山道を快適に下り、たくさんの人とあいさつを交わし、あっという間にロープウェイ駅に到着。

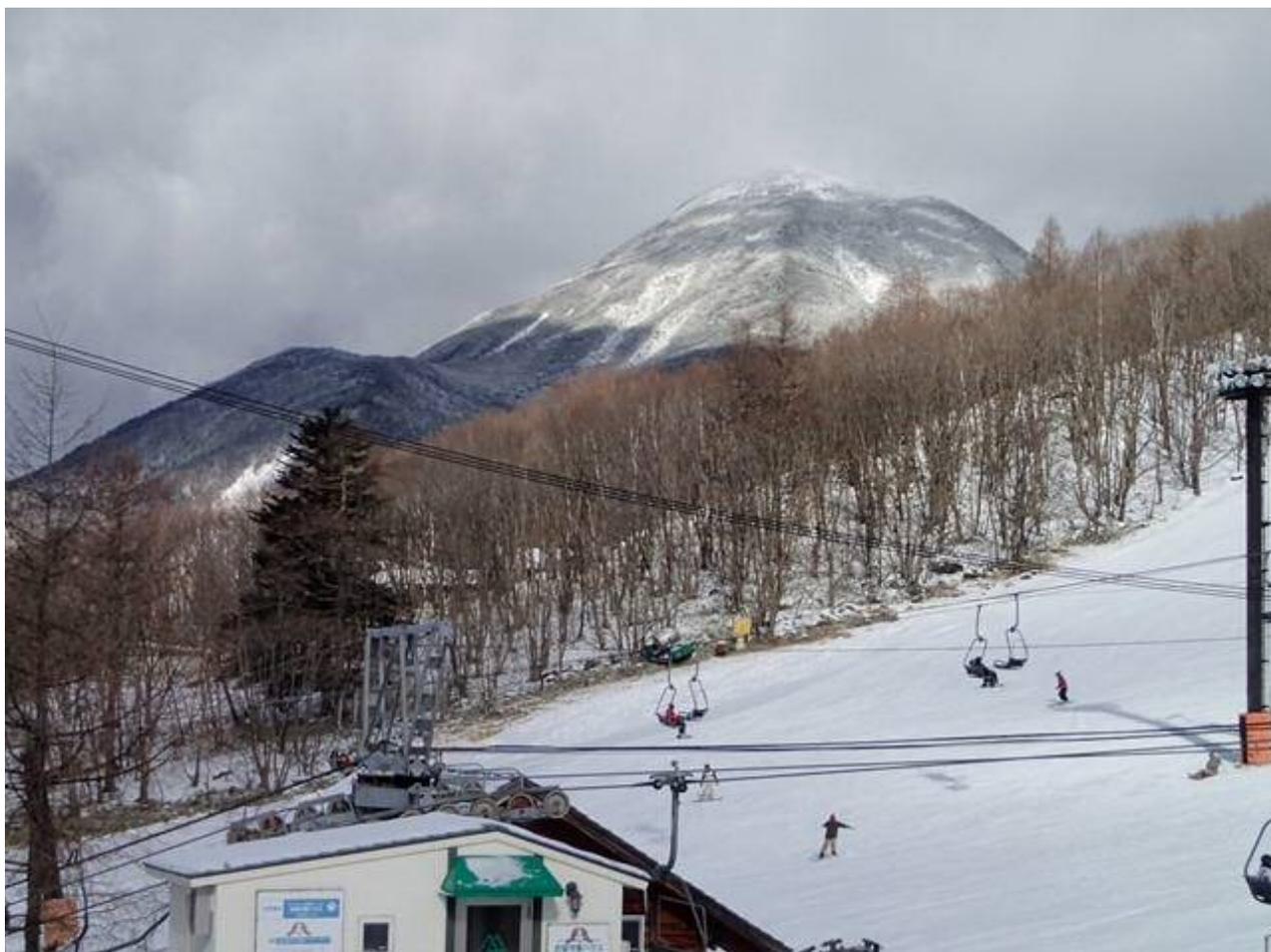
ここで80L程のザックを背負った若者に会った。それがまた曽根崎さんにそっくりで笑えたのだが、ほとんどの登山者がかわいいザックの中、頼もしさを感じた。聞けば赤岳まで縦走するという。

「いつか編笠山まで縦走してね」と話すと、「ひとつひとつステップアップしていきます。」という、これまたそっくり誰かさんと同じようなきちとした答えが返ってきて、ふふふと思えたのでした。

計画ではロープウェイは使わず、歩いて下山する予定だったが、今日の夜は親戚が集まって会食する予定。

泣く泣く(?) チケットを買って、がらんがらんの下りロープウェイに乗り込んだ。

「はい扉が閉じますよ～」といったかどうか覚えていないが、笑顔の添乗員がこれまた小池M氏にそっくりで、やっぱ人は暖かいなあ～と再確認したのでした。



●今回初めて見た蓼科山。別名「諏訪富士」。柔らかな山容です。

<タイム> 亀甲池ビバークポイント (7:00) - 北横岳 (9:20) - 北八ヶ岳ロープウェイ (10:10)

以上